

はじめに

長期化の様相を呈している新型コロナウイルス感染症蔓延の中で、今、どの学校も「子供たちの学びを止めない」ための取組に全力を挙げています。当センターも、こうした状況下において、児童生徒の教育に直接関わる教職員をどのように支えていくか、学校のために何ができるのかを考え続け、「ピンチをチャンスに」を合い言葉に、試行錯誤を繰り返す1年でありました。

各校種において順次実施されている新しい学習指導要領では、まさに現在の状況に象徴されるような予測困難な時代にあっても、未来の創り手となるために必要とされる資質・能力を確実に子供たちに育むことが求められています。この改訂の趣旨を実現するためには、子供たちの資質・能力の育成に向けて、教職員一人一人が自らの資質・能力を向上させるとともに、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、質の高い学びを具現化していく必要があります。

このような背景を踏まえながら、当センターでは、未来を拓く子供を育むために、教職員の研修及び教育に関する専門的・技術的事項の調査研究を行い、教育の振興を図ることを基本方針とし、「学び続ける教職員を支え和歌山の教育を元気にする」ための事業を進めています。

本誌は、当センターが実施する各事業がより充実し、教育現場に寄与できるものとなるよう、今年度に取り組んだ4つの研究及び実践を掲載しています。

「エージェンシーを発揮するミドルリーダーの資質・能力の向上に関する研修設計」では、令和2年度より本県教育委員会が新たな研修として実施している「ミドルリーダー育成研修」の取組から、学校を支え地域の教育を担うことが求められている中堅教員の資質・能力の向上を目的とした研修の在り方について提案しています。

「複式学級の学習指導に関する一考察」では、複式学級担任が抱える学習指導上の課題を明らかにし、当センターが立ち上げた研究会の取組を通して複式学級の特性を強みとして生かした学習指導について提案しています。

「幼稚園等研修の在り方についての一考察」では、本県教育委員会が実施する幼稚園等新規採用教員研修及び幼稚園等中堅教諭等資質向上研修において、受講者それぞれのキャリア段階において求められる資質・能力に照らし合わせて、自身の保育を省察し、保育実践力の向上を図る研修の在り方について提案しています。

「和歌山県教育センター学びの丘が実施したオンライン研修に関する創造実践の試み」では、受講者が所属校でPC等の端末を用いて受講するオンライン研修の企画に関する試みについて3つの視点で整理し、実際に運営した研修内容とそれらの成果と課題から見いだした今後の研修の在り方について報告しています。

以上、これらはいずれも本県の教育現場における今日的教育課題に対応するための研究及び実践です。本誌の内容が学校教育活動の活性化に役立つことはもちろん、本県教育の更なる充実につながることを願うとともに、御高覧の上、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。

令和4年3月

和歌山県教育センター学びの丘

所長 西 嶋 淳